

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1104 2012年3月号

## 野生鳥獣との共存に向けた連絡会議開催

～剣山・三嶺地域のシカ対策で関係機関～

徳島・高知両県境の剣山・三嶺地域におけるニホンジカ対策について、関係機関の連絡・調整会議を3月1日に四国森林管理局で開催

【関連記事3頁】





モニター会議

# 平成二三年度国有林モニター会議を開催

〈企画調整室〉

二月二三日、四国森林管理局において、「平成二三年度国有林モニター会議」を開催しました。国有林野事業の運営等

について理解を深めるとともにモニターの皆様（四国局は二六名）から、幅広い意見や要望等をお聞きし、これを国有林の管理経営に反映をしていくもので

す。

会議では、出席された一三名の国有林モニターの皆様から、モニター活動についての感想や国有林に期待すること等について、意見を頂きました。（主な意見等は次のとおり。）

○ 国有林モニターになるまで山に対して特に関心を持っていなかったが、勉強会に二回参加して、山がただそこにあるわけではなく、沢山の人が働いていることを知った。

○ 今は就職難の時代なので、若い人たちを山に入れて欲しい。管理が行き届いていないからすぐに山が崩れる。ちゃんと管理すれば崩れないので、治山に金を使うより山の管理に予算を使つて欲しい。

○ 局の広報紙はわかりやすいが別の広報紙は内容が堅く難しかった。

○ 今の林業政策は時代に逆行しているのではないかと感じている。人口が減り、木の需要が減っているのだから昔のように広葉樹の山にすればシカの被害や山崩れが減るのではないか。

○ 今の子供は、遊びとて有能ではないか。

○ 単に「木材を利用して欲しい」だけでなく、「外国産材をCO<sub>2</sub>を排出しながら使うよりも地域の材を使っていくことが重要」など、何故国産材が良いのか、というところのPRが必要である。

○ 再生可能エネルギーとしてバイオマスは原



平成23年のネット柵内の植生回復状況

## 野生鳥獣との共存に向けた連絡会議開催

### 剣山・三嶺地域のシカ対策で関係機関

〈指導普及課〉

近年急激に生息数が増加し、森林や自然植生に被害を及ぼしているニホンジカ（以下「シカ」）の

国支所などの研究者のほ

また、事務局である当

か、両県の自然保護団体の代表者などや、徳島・

「森の回廊四国をつくる会」の坂本会長からは、三

局から、昨年の本会議で提案した徳島、高知以外

高知両県、関係市町村、中国四国地方環境事務所

の担当者ら一九名及び森林管理局、関係森林管理

の香川、愛媛両県も含めた連携の重要性を踏まえ

の担当者ら一九名及び森林管理局、関係森林管理

署長等が出席し、森林管理

所、農政局、森林総合研

理局、地方環境事務所、両県などから、平成二三

年度の対策の概要と平成二四年度の対策案等を報告していただきました。

研究所の担当者で構成する連絡会を設置した旨報告

「三嶺の森をまもるみんなの会」の依光代表から、

被害・対策、管理捕獲の現状と課題について、特

に徳島側での捕獲作業の聞き取り調査の結果等について報告があり、県境

に徳島側での捕獲作業の聞き取り調査の結果等に

ついて報告があり、県境周辺で地形的、人的要因

から捕獲の空白域が生じているとの指摘がありま

た。会議には、高知大学、森林総合研究所四

合研究所四

の香川、愛媛両県も含めた連携の重要性を踏まえ

は、高知大学、森林総合研究所四

合研究所四

の香川、愛媛両県も含めた連携の重要性を踏まえ

は、高知大学、森林総合研究所四

合研究所四

の香川、愛媛両県も含めた連携の重要性を踏まえ

は、高知大学、森林総合研究所四

合研究所四

の香川、愛媛両県も含めた連携の重要性を踏まえ

は、高知大学、森林総合研究所四

合研究所四

の香川、愛媛両県も含めた連携の重要性を踏まえ

## 東日本大震災の仮設住宅建設に貢献

〈農林水産大臣感謝状〉

〈企画調整室・徳島森林管理署〉



農林水産大臣感謝状  
(中央が佐々木隆雄代表理事)

二月一三日、四国森林管理局において、「那賀川すぎ共販協同組合」の佐々木隆雄代表理事に、新木局長から、農林水産大臣感謝状

が伝達されました。これは東日本大震災における農林水産省の食料等調達の活動に関して顕著な貢献をした企業又は団体に

対して、その功績を讃え、特に農林水産大臣から感謝状の授与を行ったものです。林野庁関係では、全国から六九の授与対象者が選定されましたが、

四国からは、「那賀川すぎ共販協同組合」が選定されました。

「那賀川すぎ共販協同組合」は、『徳島すぎ板倉の家』を販売していますが、建築資材のストックがあり施工が早いことから、東日本大震災の仮設住宅に採用され、建築資材を現地に供給し、福島県いわき市などに二〇〇戸が建設されました。

この仮設住宅は、プレハブの仮設住宅と異なりスギの厚板が持っている安心感や暖かみがあるため、入居者から高い評価を得ています。また、仮設住宅としての使用が終わっても、移築すれば本格住宅としても再利用することが可能とのことです。

## 平成二二年度治山・林道

コンクール受賞者表彰式

〈総務課〉



治山・林道工事コンクール受賞者  
(四国森林管理局長賞)

治山・林道工事コンクール受賞者(平成二二年度に施工した工事)の表彰式が二月二四日、四国森林管理局局長室で行われ、次の方々が受賞されました。

(敬称略)

◎四国森林管理局局長賞表彰

〔治山部門〕

○株式会社 山全

代表取締役 牛尾 正治

○湯浅建設株式会社

代表取締役 湯浅 雅文

〔林道部門〕

○大字建設株式会社

代表取締役 大字 徹

○多田工業株式会社

代表取締役 多田 裕

また、二月一六日に林野庁において、表彰を受けた方々は次の方々です。

◎林野庁長官賞表彰

〔治山部門〕

○山下産業株式会社

代表取締役 山下 政司

〔林道部門〕

○一若建設株式会社

代表取締役 中畑 健右

森林教室・木工教室開催



〈指導普及課〉

一月二二日、高知市立介良小学校において、森林教室と木工教室及び木を使ったおもちゃ遊びを実施しました。

これは、介良小学校から、親子が参加するイベント「ふれあい参加日・介良の祭り」の体験学習コーナーの一つとして、木工製作の

三二名の親子等が参加しました。

はじめに、「木を使って地球を救う」というDVDを見て、森林の働き等について理解を深めてもらいました。続いて二つのグループに分かれて、「フクロウ鉛筆立て」と「カップカエル貯金箱」を作製しました。

体験させたい遊びです。」といった感想がありました。また、児童からの森林教室・木工教室の実施要望もありました。

体験活動を通じて森林への理解を深めさせたいと、当局に森林・木工教室の依頼があったものです。

今回のイベントは、児童及び保護者に対して森林の働き及び木の良さ、大切さを学んでもらうものであり、また、国有林野事業のPRの良い機会になりました。

木工教室の様子



当日は、森林・木工教室を含め、二二の体験コーナーが設けられ、森林・木工教室には、

その後、木製の「パズルゲーム」「各種けん玉ゲーム」「木製ゴムてっぽうゲーム」等を行い、親子で楽しい時間を過ごしました。「アンケート」で、「アイデアあふれるゲームは、どれも暖かみがあり、小さい頃から、いっぱい子供達に



# 各地のたより



## 木のあたたかみに触れて

〈ふれあいセンター〉

二月七日、愛媛県愛南町立緑小学校の全校児童四四名が、木工クラブトに挑戦しました。

緑小学校では、環境教育に取り組んでおり、高



### のこぎりで切るよ

高学年は、ノコギリやクラフトナイフなどの道具を使って

低学年の児童は、当センター職員が予め輪切りにしたサクラの枝を木工ボンドで貼り付け、クマのストラップなどを作りました。

まず、ノコギリやナイフなど道具の安全な使い方や、製作に取りかかります。

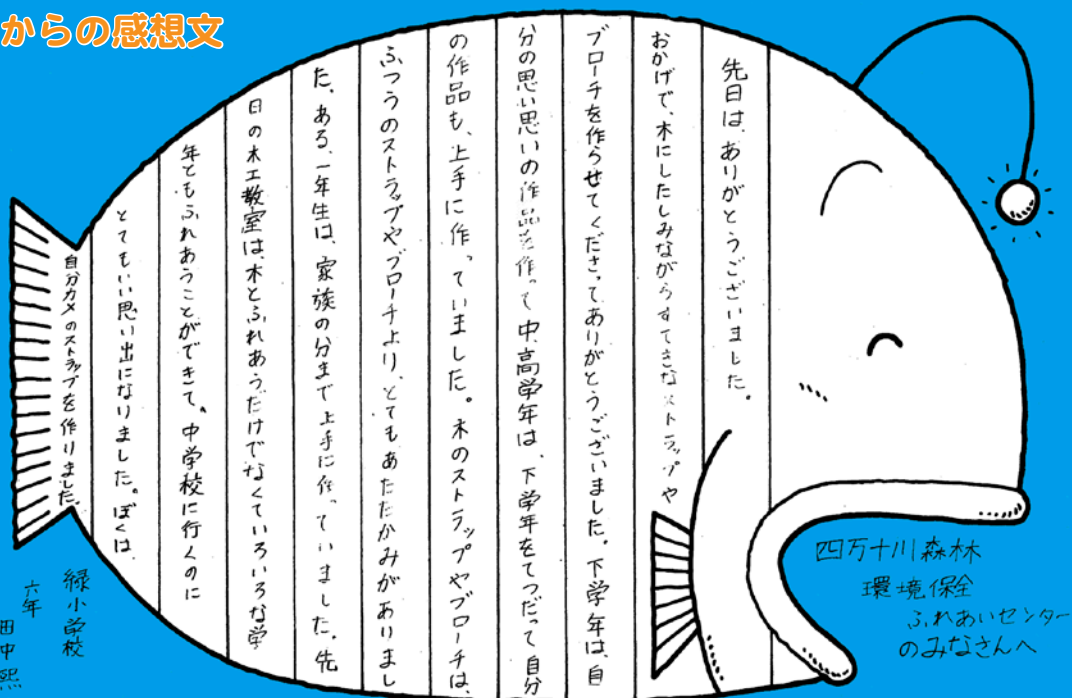
学年の児童は間伐体験なども行っています。低学年の児童にも森林や林業、木材の良さなどに触れてもらいたいと、当センターに木工教室の依頼がありました。

木を切ることから始めます。使い慣れない道具に四苦八苦しながらも、クラブトムシやクワガタ、クマなどができあがると、自分の作品を満足げに見入ったり、友達の作品を見て、さらに作品作りを励んでいました。

職員三名は、児童には難しいドリルでの穴開けや、堅い木の切断など、引つ切り無しに訪れる児童の要望に悪戦苦闘しながら対応していました。

後日、小学校から送っていた児童の感想文には、「市販品にはない木の暖かみがありました」とあり、森林や木材への理解の一助になれたと職員一同喜んでいきます。

## 児童からの感想文



## 「南郷小学校で

### 森林教室」

〈ふれあいセンター〉

高知県黒潮町立南郷小学校では、木や森林の役割を知り、大切にしようとする心や態度を育てることを目的に「木工クラフト」「シイタケの駒打ち」体験を行いました。

二月一六日、一年生から四年生児童二四名は、道具



おとうさんと一緒に

の安全な使い方の説明を受けて「木工クラフト」に挑戦しました。

早速、見本を参考に動物のストラップやクマの置物などを作ろうとし、カブトムシやクワガタが大人気でした。作業時間は約一時間半程度と短いながらも自作の宝ものが次々に完成すると、皆とても満足そうでした。

また、二月二六日には、参観日を兼ねて同校の三年生と四年生一二名が親子で「シイタケの駒打ち」体験を実施しました。

当センター職員からきのこの種類や毒きのこの話、椎茸栽培の仕方等を聞いた後、駒打ちに取りかかりました。

親子で直径約一〇cmのクヌギに電動ドリルで穴を開け、しいたけ菌の駒を金槌で打ち込み、約一

時間で長さ一mのほだ木三〇本ができあがりしました。このほだ木は校舎の裏の雑木林の下に伏せ、早ければ今年の秋にはシイタケが生えて来ます。

可愛いシイタケが顔を出します。すまでは少し日数がかかりますが「森からの贈り物」を楽しみに待つことでしょう。

椎茸栽培をとおして、森林や木材、地域の自然や生活に関心を持ち、理解を深めてくれることを期待しています。

## 「ありがとう集会」に

### お呼ばれ

〈ふれあいセンター〉

二月二二日、例年森林教室を実施している愛媛県松野町立松野南小学校から「ありがとう集会」

に招待され、子ども達から楽しいひととき、をプレゼントされました。

この集会は同校の児童会主催で、この一年間にお世話になった方々を学校に招待して感謝の気持ちを伝えることを目的に開催されたものです。

松野南小学校は、本年度は新入生・卒業生とも不在という全校児童数が一〇名の小規模校ですが、日頃から地域と深く交流しており、地元につながるしめ縄作りの指導や学校行事の奉仕作業に協力した老人クラブ、校外で音楽指導をされたご婦人、児童の安全を見守られた駐在さんなど、多くの方々

が招かれていました。「集会」では、児童の歌やゲームなどでもてなされるとともに、招待者全員に児童手作りの感謝状

合唱する児童



やクッキーが渡されました。

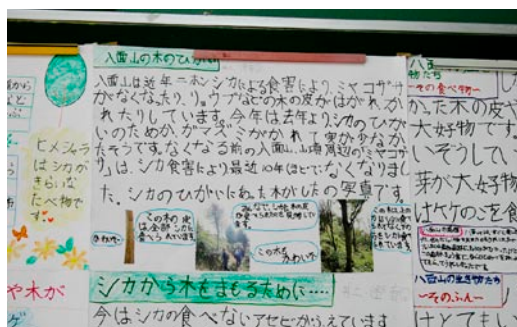
職員への感謝状には、森林教室のお礼とともに「これからも森林・林業に興味を持って勉強していきます。次の森林教室を楽しみにしています」とあり、子ども達に元気づけられた一日となりました。

# 「わくわく発表会」

〈ふれあいセンター〉

二月二四日、愛媛県松野町立松野西小学校では授業参観に合わせた「わくわく発表会」を開催し、この一年間、四年生に六回の森林教室を行ってきた当所職員も招かれました。

「発表会」当日は陽気に恵まれ、全校児童が「もやいの広場」に集合してオープニング。各学年の代表が発表内容をアピールした後、各教室での発表会に移りました。  
四年生の教室の壁には、グループごとの発表内容が所狭しと掲示されています。なかでも、校庭での樹木学習や、空飛ぶ種子、木工クラフト、土壌実験、八面山散策及び炭焼き体験など、森林教室で学んだこと



八面山のニホンジカ被害

をきっかけに、後日、インターネットなどで学習したことが伺えるものばかりです。参観された父兄も大いに感心されていました。

楽しい思い出となった八面山散策コーナーでは、登山途中に学んだ樹木やニホンジカの好きな植物、嫌いな植物、シカやウサギの糞などを写真付きで説明されていました。また、どのグループも要点や感想を元気に発表し、友達やご父兄の質問にもてきぱきと答えて

いました。  
子ども達は、これからも森林・林業や環境問題に興味を持って成長してくれることでしょう。



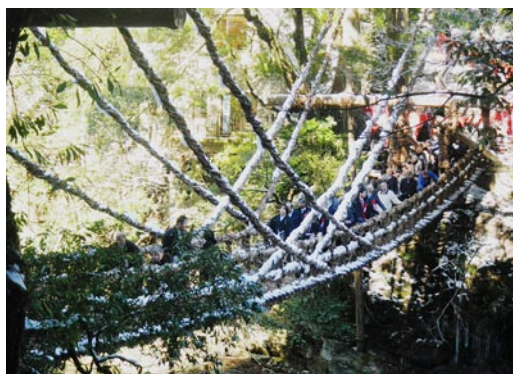
お母さんからも質問

## 祖谷のかずら橋、架け替え 嶺北森林管理署から資材供給

〈徳島森林管理署・  
嶺北森林管理署〉

二月二〇日、徳島県三好市西祖谷山村善徳にある「祖谷のかずら橋」が三年ぶりに架け替えられ、現地

で竣工式が行われました。  
国指定の重要有形民俗文化財のかずら橋は、祖谷の観光スポットとして年間三〇万人の観光客が訪れますが、構造材が自然素材であるため、約三年ごとに架け替えを行っています。  
主な材料のシラクチカズラ（サルナシ）は、これまでは徳島森林管理署管内の国有林や周辺の民有林から採取されてきましたが、今回は初めて高知県の嶺北森



渡り初め（竣工式）

林管理署管内の小桧曾山国有林から、約六トンが供給されました。

竣工式は、雪の残るかずら橋のたもとで執り行われ、国有林の関係者は、徳島、嶺北両森林管理署の署長や森林官などが出席し、厳かな神事に続いて、テープカットが行われ、三世代のご家族を先頭に、渡り初めで竣工をお祝いしました。

この竣工式の様子は、テレビ放映や新聞に掲載され、シラクチカズラが嶺北森林管理署管内の国有林から供給されたことも報じられました。

徳島森林管理署では、かずら橋架け替え資材の供給に関する協定を地元と結んでシラクチカズラの培養と供給に取り組んでいます。国、県、市、町、村、林業関係者、市民、観光客、地元企業、国、県、市、町、村、林業関係者、市民、観光客、地元企業、国、県、市、町、村、林業関係者、市民、観光客、地元企業、



など、木の文化を支える資材の供給も重要であり、今後とも地元の要望に応え、地元と連携しながら管理経営を進めていきたいと考えています。

## 「遊々の森」で植樹体験

〈香川森林管理事務所〉

二月一六日、高松市屋島国有林にある「遊々の森」ドキドキわくわくコースにおいて、高松市立屋島東小学校四年生の児童二六名が参加して、森林教室とクヌギの植樹を行いました。

始めに、日本や世界の森林についてクイズ形式で学ぶ森林教室を行いました。児童たちは、香川県の森林率をはじめ、森林に関して事前に勉強していたようで、大きな声で解答し、職員もたじたじでした。

その後、植樹を行いました。児童たちは、足元の悪い中、鍬で一生懸命に土を掘り、木が大きく育つよう、丁寧に植えていました。植樹した後は、木杭に「大きく育て！」など、児童それぞれが思い思いに書いたメッセージボードを木のそばに立てました。すべての苗木を植え、メッセージボードを立てた後、記念標柱を設置しました。

森林教室・植樹を終えて、



クヌギを植樹

児童たちからは、「クイズが楽しかった」、「苗木を植えるのが大変だった」などの感想があり、森林・林業の重要性や苗木を植えることの大変さを実感できたようです。

四年生の森林教室は今回で終了しますが、今後も植樹した木の生長や身近な自然に関心を持ち続けてもらいたいと思います。

## あしずり駅伝大会に参加して

〈四万十森林管理署〉

高知県西部の土佐清水市で、二月二二日、第四四回あしずり駅伝大会が実施されました。コースは、六区間二九km、参加チームは高校生チームを含め総勢三八チームで、当署

ムが参加しました。「四万十森林管理署チーム」と「えいじ軍団チーム」です。

署チームは、黒尊森林官の河野さん、窪川森林事務所の山下さん、中津川森林官の森下さん、四国森林管理局からの助っ人、熟年ランナーの井上さんらの活躍で、二三位と好成績でした。

えいじ軍団チームは、昨年の最下位の汚名返上に燃え若手中心から中堅も交えた布陣で挑み、中でも、安芸署から助っ人で参加した馬路森林官の福山さんは、二区で区間一位の見事な走りです。最下位脱出に貢献しました。両チームとも練習不足の中、最後までタスキをつなげ無事ゴールすることが出来たことで、達成感、充実感でいっぱいでした。

また、署からの、応援団はもとより、沿道の方々からもらった皆さんの声援を受け、森林管理署をPRすることが出来ました。

来年も、練習をかさね挑戦することを誓い解散しました。



あしずり駅伝を終えて

農林業インターンシップに参加した四万十高  
 在校生からの感想文

〈安芸森林管理署〉

〈高知県立四万十高等学校  
 二年自然環境コース〉

新玉 悟

一月二六、二七日と高知県安芸郡馬路村魚梁瀬へ農林業インターンシップに行きました。二日目は千本山登山でした。千



ヤナセスギ「橋の大杉」の大きさを疑似体験中

も入れて、一六人程がすっぽり入れる大きさでした。見た目よりも幹が大きいことが分かり、驚きました。登山道は、木で作られており、意外と楽で、時折バードコールを鳴らし

ながら登って行きました。鳥もバードコールに答えてくれている気がしました。途中、親子杉などの有名なヤナセスギを見て、昨年、研修に行った鹿児島屋久島のスギを思い出しました。屋久島のスギはとても大きく、迫力がありました。屋久島の森は下草が生えているというよりはコケがたくさんあるといった印象で、千本山の方が下草が生えていて日の光が入っているように感じました。ま

生えているところがあるけれど、千本山は登山道以外場所には下草が生えていて、こういう森がよい森なのだと思います。長い年月をかけていい森を造るためには、継続した手入れが必要なのだと思えることができませんでした。しかし、千本山でもニホンジカの被害などがあると聞きました。昨年、愛媛県(宇和島市)と高知県境(四万十市)の八面山や高知県四万十町市の又風景林で研修したときにも、ニホ

ンジカの食害やそのための対策を学びました。この森林も同じような問題があることを知り、食害への対策の重要性を感じました。鉢巻落としては、大きなスギがたくさんあり、見上げてみると圧巻でした。登山の最終地点である展望台は魚梁瀬の村が見渡せる絶景の場所でした。この研修では、たくさんの方に世話になりました。森林の手入れの大切さ、林業の役割を学ぶだけでなく、地域の人々の協力や人と自然とのかわり方など、たくさん学ぶことができました。研修でお世話になった皆様、本当にありがとうございました。



鉢巻落としての杉を見上げている生徒

た、私たちの四万十高校周辺の大正の森は下草があまり生えてないところと、下草がたくさん生えているところがあるけれど、千本山は登山道以外場所には下草が生えていて、こういう森がよい森なのだと思います。長い年月をかけていい森を造るためには、継続した手入れが必要なのだと思えることができませんでした。しかし、千本山でもニホンジカの被害などがあると聞きました。昨年、愛媛県(宇和島市)と高知県境(四万十市)の八面山や高知県四万十町市の又風景林で研修したときにも、ニホ